

## パネルディスカッション

### 第1部

### 研究倫理教育のアプローチについて

### 第2部

### 研究倫理教育の効果測定について

金光 秀和 金沢工業大学 教授

佐々木 孝彦 東北大学 教授

臼澤 基紀 東北大学 特任講師

瀬戸山 晃一 京都府立医科大学 教授

モデレータ: 札野 順 東京工業大学

1

## パネルディスカッション

### 第1部

### 研究倫理教育の アプローチについて

2

# 第1部 研究倫理教育のアプローチについて

1. 研究倫理教育の必要性と位置づけ
  - 何故、研究倫理教育を行うのか
  - 研究倫理教育は不可欠か、付加的か
2. 研究倫理教育の目指すべきもの
  - 予防倫理と志向倫理
3. 研究倫理教育の対象と手法
  - キャリアステージ別の教育と課題
  - 研究の現場での倫理教育の可能性

3

## 論点1 研究倫理教育の必要性と位置づけ

- 研究不正を防止するため
- 文部科学省のガイドラインがあるため
- 組織(大学、研究機関)の目標(中期目標など)に掲げてあるため
- 研究倫理教育は、研究者養成の中核部分であるため(NIH)
- 「よき研究者」を育てるため
- 優れた研究成果をあげるため
- その他

4

## 論点2 研究倫理教育が目指すべきもの

- 予防倫理と志向倫理
- 両者のバランスと融合
- 志向倫理の具体的な教育手法

5

### 二つの倫理

	志向倫理 (Aspirational Ethics)	予防倫理 (Preventive Ethics)
側面	善・正	悪・不正
目的	優れた意思決定と行動 (Good Works)を促す	やってはならないことや 守るべきことを示す
方向	福利(well-being)への貢献	安全・健康の確保
傾向	外向き	内向き
効果	鼓舞・動機付け	萎縮

6

# 二つの倫理

	志向倫理 (Aspirational Ethics)	予防倫理 (Preventive Ethics)
方向	人(個人)や社会の福利 (well-being)への貢献	安全・健康の確保 (害やトラブルを避ける)
動機 OS	内発的 モチベーション3.0	外発的 モチベーション2.0
欲求 段階	第5段階 (自己実現欲求)	第1～4段階
道徳発 達段階	5～6段階 (ポスト・コンベンショナル)	1～4段階 (プレ/コンベンショナル)
倫理理論	徳倫理	義務論 7

## 論点3 研究倫理教育の対象と手法

- キャリアステージ別の教育と課題
  - ✓ キャリアステージ別教育は有効か
  - ✓ 各ステージが抱える課題とは何か
- 有効な教育手法、特に研究の現場での倫理教育の可能性
  - ✓ 各種の教育手法
  - ✓ Ethics across the curriculum
  - ✓ 教育の現場での倫理教育の可能性

# 研究倫理教育の手法

- 講義(必修、選択)
- E-learning (含むMOOCs)
- ハイブリッド型
- 講演・セミナー(受動的学習)(単発、シリーズなど)
- ワークショップ(アクティブラーニング)
- 自学自習
- Ethics across the curriculumとMicro-insertion
- キャリアステージ別教育
- 「研究の現場での倫理教育」
- その他には？